

2006年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年6月13日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹、
山下恭子 <以上8名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)、
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(5月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(6月)
- 資料 4：『あなたは生き残れますか』申込み・参加者状況等
- 資料 5：『あなたは生き残れますか』アンケート集計結果
- 資料 6：2006年度第1回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
- 資料 7：2006年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 8：収益事業(案)
- 資料 9：収益事業に伴う検討事項
- 資料 10：社会福祉法人西東京市社会福祉協議会ボランティア推進事業積立金規則改正(案)

委員長：西東京市社会福祉協議会の2005年度事業報告書、決算書が資料として配布されているので見ていただきたい。今日の会議に、委員一人が遅れるとの連絡があったが時間となったので運営委員会を開催する。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、資料1に基づき5月の業務報告が行われる。

委員長：わんぱく相撲では、参加者の反応はどうだったか。

事務局：子ども達は、喜んで風船を受け取り、その親にボランティア・市民活動センターのチラシを手渡しPRすることができた。ただ、風船を無料で配布したことはコスト面でどうだったのか疑問である。

委員：地域包括支援センターとの懇談会はどのような内容だったのか。

事務局：今回の懇談会は、地域包括支援センターの保健師、看護師との懇談会だったが、内容はボランティア・市民活動センターとどのようなつながりがあるか、あるいは今後どのような協力関係が築けるかを探る懇談会であった。具体的にはシニアボランティアスクールや回想法講座、登録のしくみなどについて説明し協力を求めた。

他に質問、意見無く5月の業務報告を終了した。

委員長：では次にコーディネート状況の報告をしてほしい。

資料2に基づき、事務局よりコーディネート状況報告が行われる。

質問、意見無く、5月のコーディネート状況の報告を終了する。

委員長：続いて6月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より資料3に基づき6月の事業予定が説明される。

質問、意見無く業務報告を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より、資料4、5、6に基づき災害講演会の報告および第1回災害時のシステムづくり専門委員会（以下、災害専門委員会と表記）の協議内容について報告がある。

委員長：講師からは大変参考になる話が聞けたと思う。コミュニティが大事だということがよくわかった。近隣の助け合いが阪神・淡路大震災の時に活きたということが話されていた。

他に質問、意見無く災害専門委員会の活動報告を終了する。

(3).メールボックス有料貸し出しについて

事務局：資料はないが前回運営委員会で意見をいただき、それを基に検討した結果、メール便、現金書留、書留についても扱うこととし、事務所で保管することとした。その際は、別途1回の利用につき100円を負担してもらう。利用料を月100円とすることについては、他地区ではほとんどが無料としていたことや、任意団体にとっては月100円以上になると負担が大きくなると判断し、変更しないこととした。メールボックスの設置場所は、事務所に置くと職員がいない時間帯は部屋に施錠するために利用できなくなるので、活動室に置くことにした。対応できないものとして、クール便や着払い扱いのものについてはお断りをする。

委員：スペアキーの作成はどのように考えるか。

事務局：スペアキーを作成する場合は各団体に費用を負担してもらう。メールボックスを利用しなくなった時には、各団体で作成したスペアキーをボランティア・市民活動センターに寄付してもらうようにする。

委員長：スペアキーをボランティア・市民活動センターがもらうことを事前に各団体に了解してもらう必要がある。

以上の意見が出され、メールボックス有料貸し出しについての報告を終了する。

(4).西東京市からの補助金について

事務局：市総合調整課と市生活文化課と調整を行った。2者ともに補助金の所管替えについては異論が無く、具体的にどのようにしたら実現するのか詳細について今後検討していくことになる。

委員長：補助金の担当課が福祉系から市民系になり、補助金の出どころが替わるだけのようだが、事業委託のようなことはあるのか。

事務局：今のところはそのような話は出ていない。

他に意見、質問無く西東京市からの補助金についての報告を終了する。

2. 審 議 事 項

(1). 2006年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料7により、第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員：12ページ26行目、「第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録」
「第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録」に訂正。

委員長：12ページ47行目、「書き方がわかりづらい」「書き方がわかりづら^い」に訂正。

委員：13ページ9行目～10行目、「ボランティアつどいは、ボランティア活動に参加する人を増やすということ、ボランティア活動する人たちネットワークをつくるという二つの目的があったが」「ボランティアのつどいは、ボランティア活動に参加する人を増やすということ、ボランティア活動をする人たちのネットワークをつくるという二つの目的があったが」に訂正。

以上を修正し、第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とする。

(2). 収益事業への取り組みについて

事務局より、資料8、9に基づき収益事業（案）についての説明、提案がある。

委員長：事業を受託して実施したことにより収益があった場合、補助金が減額されるかどうかは確認したほうがよい。行政の考え方なので交渉するべきだと思う。もしもその減額されることについて要綱や条例などの根拠があるのであれば、それを変えていくべきではないか。また、強化プランでは自己財源を拡大していくということがうたわれているので、そのことを実施していくべきだと思う。

委員：強化プランでもセンターが自立できるようにということがある。それを目指すのであれば収益事業を実施していくべきだと思う。西東京ボランティア・市民活動センターは財源的にも自立を目指していくということではないのか。

委員長：作成されている強化プランでも自立を目指している。

委員：市の補助要綱を変えてもらうことはできないのか。

事務局：タイミングを計り、市と話し合いをしたいと思っている。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターが民間ということであれば、全額自己財源でまかなうという姿勢が必要なのではないか。

委員：現在のボランティア・市民活動センターの財源構成を変えることは可能なのか。

委員長：事業を受託していくなどの方法を取れば財源構成を変えていくことは可能ではないかと思う。

委員：財源確保をなぜ考えるのかは、補助金が削減されるからではなく、民間団体として自主財源をどうやって拡大するかという視点になるのではないか。

事務局：民間団体として補助金の比率を下げる努力をしていくべきだと考えている。

委員長：社会福祉協議会全体の中であるいはボランティア・市民活動センターの職員が財源確保についてどのように考え、その考えを運営委員会がどうやってバックアップしていくかということになる。

それでは、財源を確保していくための具体案を各委員から出してほしい。

委員：事務局案にあるノートパソコンの貸し出しについては個人情報の流出の危険性を考えることが必要ではないか。また、募金箱を置くだけでなく、人が集まる場所で募金活動を行うことが大切だと思う。

委員長：ノートパソコンの貸し出しのニーズはあるのか。

事務局：パソコン教室を開催したり、活動室を使う団体が話し合いの記録をとるなどでパソコンを使っている。

委員：サポーター制は実施したほうがよいと思う。

- 委員長：サポーターを募る仕組みをつくり、どうやってサポーターになってもらうか、集めるかが大切。
- 委員：企業では、福祉団体に物品を寄付したりしている。金銭寄付よりは、企業の施設などを利用してもらうことにより地域貢献をしようという考えがある。
- 委員長：自分が所属する団体では、本の収集、リサイクルは月約 100 万円の収入がある。
- 委員長：インターン、実習生は有料で受け入れるのか。
- 事務局：そのように考えている。
- 委員：社会福祉士の受験資格を取るための実習では、今後、実習時間を増やす動きがあるので、収益につながるかもしれない。
- 委員：ボランティア活動や市民活動に関する本を書いて売ってはどうか。大学の授業で使うこともできるので収益になると思っている。
- 委員長：ブックレットでもよいと思う。
- 委員：企業と組んで何かをやってはどうか。お互いにメリットになるようなもの、たとえばチャリティの催し、店の売り出しにあわせてもちつきなど。また、店舗の敷地を使ってバザーやフリーマーケットを行ってはどうか。企業側にとっても集客という点でメリットがあるのではないかと思う。
- 委員：人がボランティア・市民活動センターにたくさん来るようなことを考えてはどうか。子どもが喜ぶような独自のものを作って売ったり、人と物をつなぐリサイクルショップを行ってはどうか。そのことによって人も集まり、つなぐことができる。毎日やることが大事。インターネットカフェもよい。実習生の受け入れもよいが、研修を企画してそれを売り込み実施する。そういう場を使って物を売ることもできる。
- 委員：NPO が行う事業を紹介・斡旋してはどうか。ぼらんていあ倶楽部に有料広告を掲載する。祭りなどで物を売る。葬式の手配や保険の代理店も可能性としてはあると思う。収益につながる事業はいろいろ考えられるが、どこまでやるかが問題。
- 委員長：運動から事業にしていくことが大切。今ボランティア・市民活動センターが行っている事業と関係付けることが必要だと思う。職員の顔と名前を売る。営業して研修を行う。非常食の委託販売。人同士をつなぎ、出会うことを目的にネットワーキングチャリティパーティの企画・開催などが考えられる。
- 委員長：各委員から出された収益事業の案を事務局で検討し、できることを実施して欲しい。

以上の意見が出され、収益事業への取り組みについての協議を終了する。

(3)．社会福祉法人西東京市社会福祉協議会ボランティア推進事業積立金規則改正（案）について

事務局より、資料 10 に基づき、社会福祉法人西東京市社会福祉協議会ボランティア推進事業積立金規則改正（案）について説明、提案がある。

- 委員長：使用した金額を補填するという考えはあるのか。
- 事務局：あくまでも積立金を取り崩して使用するという考えである。
- 委員長：そうすると、積立金を使った後は新たに積み立てていくという考えでよいか。
- 事務局：そのように考えている。

他に意見無く、事務局が作成した案のとおり承認される。

以上をもって、2006 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。